

一大事

いちだいじ

「一大事にございます！」

時代劇でよく聞こえてくる

言葉です。「一」という数字は不思議です。私の名前は「一秀」です。父が名前を付けるときに友人から言われたようです。「この子は一つしか秀でる所がないのか」「いや、一つでも秀でる所があったら十分だろう」さて、私の一はどちらでしょうかねえ。「一つも秀でる所がない」が一番当てはまる気がします。

一大事は仏教でも用いられます。最も大事なこと、一番寛容なことです。一大事は仏の一大事と我々の一大事の二方面から見るおとがで、仏側から見れば、「私が仏になった最も大事な理由は、迷い続けるしかない凡夫（我々）をすくうためである」と。我々から見れば、「迷いが晴れない私

一大事



を、阿弥陀如来がすくい、極楽に生まれさせていただく」と。

仏道とは自己を問うなり 今一度、かみしめたい言葉であります。



ヒータんの
マネしちゃダメと
いうまよ

カ右左取

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。



一念発起

いちねんぼつき

困難に直面した際に、それを乗り越えようとするのではなく、受け入れることで道が開けることがあります。

今回の、一念発起を広辞苑で引いてみますと①直ちに念願を起こして、仏信仰の道に入る事 ②転じて、或ることを成し遂げよう、または改めようと決心することとあります。

どちらも、ある目標に向かって邁進していくイメージがありますが、浄土真宗では180度変わります。仏教は「仏になる教え」。親鸞聖人は仏になるために比叡山で修行されました。しかし、自らの煩惱の闇から解放されることはありませんでした。山を下りられ、そして法然聖人に出会い、「煩惱を持たざるをえないあなただからこそ、すくおうと誓われたのが阿弥陀如来である」と導かれたのです。

浄土真宗における一念発起とは、この私を受け入れてくださる阿弥陀如来のおこころいただくことができたときなのです。

